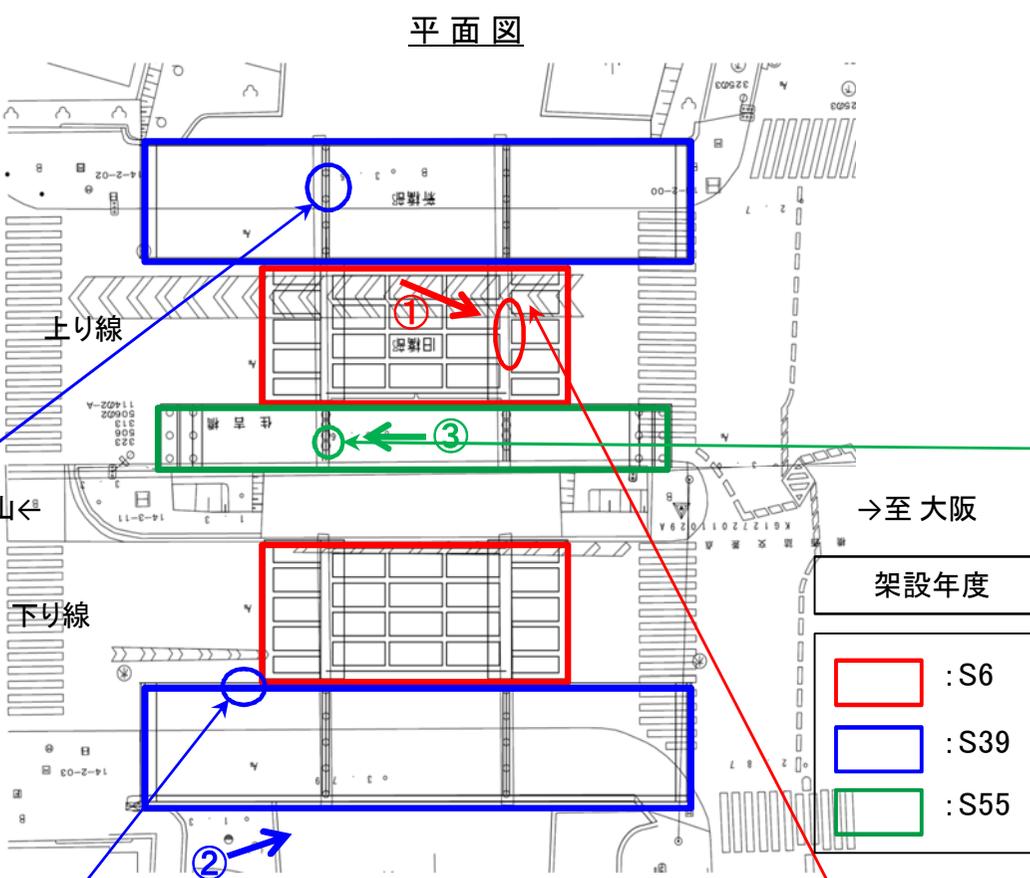


■住吉橋は老朽化による損傷が進行しており、橋脚の耐震性の不足が懸念されていました。昭和6年当初のコンクリート橋に対して橋長の違う鋼橋で拡幅された複雑な構造の橋梁であるため、様々な耐震対策手法について検討を実施する必要性がありました。



② S39年架設
(RCパイル橋脚)

平面図

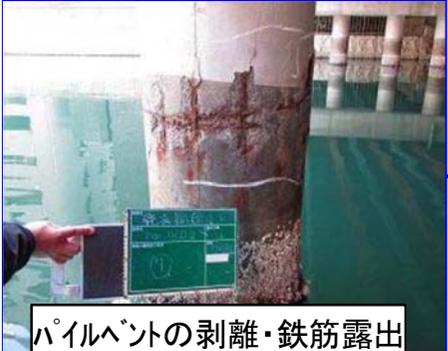


架設年度

- : S6
- : S39
- : S55



③ S55年架設
(鋼製パイル橋脚)



パイルベントの剥離・鉄筋露出



パイルベントの腐食



伸縮装置部の床版抜け落ち



柱部の剥離・鉄筋露出



① S6年架設
(ラーム橋台)

- 耐震対策手法について、学識者を招いて「橋梁技術検討会」を開催し検討を実施しました。
- 施工性・維持管理・経済性の観点から「橋梁架替案」及び「耐震補強案」を比較検討した結果、「**橋梁架替案が妥当**」と判断されました。

【(参考)橋梁技術検討会メンバー】

○松井 繁之(大阪大学名誉教授) ○杉浦 邦征(京都大学大学院教授) ○山口 隆司(大阪市立大学大学院教授)

【橋梁技術検討会の検討結果】

※比較表の側面図は、昭和39年架設部分の例

	橋梁架替案		耐震補強案	
概要				
実施内容	新橋架替		基礎杭補強、基礎補強、橋脚補強	
施工性	△	橋梁架替を分割して施工するため、大阪方面(または和歌山方面)の交通規制が必要	△	基礎杭、基礎及び橋脚補強時に仮締切が必要であり、河川内作業に制約がかかるため工期が長期化する
維持管理	○	新橋であり、当面は定期点検のみ対応	△	架設から85年経過しており、定期的な橋梁補修が必要
経済性	○	1.00	△	1.14(橋梁架替案を1.00とした場合)